

第30回 教育サロン・保護者コミュニティ「おひさまの会」の報告

「子どもの未来を創る」

～放課後の子どもの実態から考える～

講師：横浜市教育委員会 東部学校教育事務所所長 北村 克久先生

日時：平成26年6月28日（土）2：00～4：00

会場：横浜市立本町小学校

「おひさまの会」は、これまでにさまざまな事業を行ってきました。今回は30回目の事業という節目の会に、横浜の子どもたちの未来を見据え、夢に向かって活躍している北村先生を講師に迎え講演会を開催できました。これからの「おひさまの会」の方向性にもかわりそうな様々な問題を提言していただいた有意義な講演会になりました。

現在、子どもの周囲の環境はどんどん広がっている。さらに大きく広がっていくのは、学校以外の場ではないか。学校では先生方が必死で子どもたちの教育に頑張っているが、そこには限界がある。必ず一人は学校の手の届かない子どもがいる。参会者の皆さんにも子どもたちのために何か出来ることがあるのではないかと。という切り口で私たちに「第三の大人」（近所のおじさん・おばさん・直接支援する人）としての問いかけがありました。



提示していただいた沢山の資料「国際比較調査からみた放課後活動の実態と効果」から日本の子どもはよく勉強しているが、欧州各国に比べ、薄い交友関係や放課後活動への不参加、自己肯定感の低さなど憂慮すべき現状が見えてきました。「家庭・地域社会における学習調査」や「今の学校制度で出来ること～欧米の学校を例にして日本で出来ることを考える～」などから見える日本（横浜）は、現行制度では日本の小学生の放課後の行き場がないと言えます。特に横浜市では、留守家庭の児童の多さと現制度への満足度の低さが浮かんできています。

さらに、「困難を抱える子ども・若者」「社会に孤立する市民」「うつ状態の母と子の家庭」などからの資料を基に、「困っている人に『私たちは』何が出来るか」「困っている子どもをどう救ったらよいか」「おひさまの会で原案を作っていこう」と参会者に問題提起がありました。参会者から「行政・保健士・近所の人・子供会・幼保小連携・福祉施設・複合施設等々」身近なところから見直していく視点での提案が沢山出されました。

今後ますます求められるのは「団塊の世代の力」「団塊の世代を中心としたネットワークづくり」が必要ではないかということです。

そのためには、直接支援者と支援方法を結ぶ機会をマッチングさせる場所が必要となってくる。ここで第三の大人とのマッチングが登場します。学校・家庭・地域の第三の大人がかかわることにより、「子どもが強くなっていけば」「第三の大人が複合施設などとマッチングすれば」「第三の大人が多くのプロフェッショナルの人々とマッチングして子どものためのプログラムを作れば」・・・。

自分を好きになる子どもがもっともって増えてくるのではないか。壮大な、けれども実行可能かもしれない課題をいただいた記念すべき講演会でした。

北村先生 ありがとうございます。

《参加者の感想》

- ・ 北村先生の「青春パワー」を堪能しました。放課後についての多くの社会問題について考えさせられました。人とかかわる機会が大切なですね。
- ・ 「声をかける」ことと継続が大切と思いました。自分を嫌いな子どもたちが増えているのも、親や第三の大人がほめることが少なくなっているのも、自尊心がなくなってきたのかも知れません。子どもの本音は、放課後は親に話したいと思っています。いろいろな家庭の事情はあると思いますが、学校が終わるまでのパートでお母さんが働きやすい環境が理想だと思います。「子どもたちよ、父の懲らしめ、母の律法を捨て去ってはならない」という聖書の言葉があります。やはり、子どもを育てるのは親の責任なので愛をもって育てないと子どもたちは離れていくと思います。親子のコミュニケーションが本当に大切と認識しました。今日はいろいろ考えさせられたたくさん益が得られました。
- ・ 大変聴きやすく意識の高まるお話でした。これから自分のやりたいことや、やっていかなければいけないことが明確になった気がします。
- ・ 様々な問題提起の中で、具体的な私でも出来そうなことが落とし込んであったのでとても興味深く聞かせていただきました。保健士さんの定期健診は小学校入学前の6歳まで延長したほうが把握できてよいと思います。
- ・ 楽しかったです。勉強になりました。「継続は力なり」と様々な局面においてそう思いました。第三の大人とのかかわりをマッチングすることが仕事として確立しなければ継続する面においてもきついと思いました。
- ・ 気になることがあり参加しました。参考に出来る情報が与えられてよかったです。
- ・ 北村先生のエネルギッシュなお話ありがとうございます。おひさまの会の皆様と困難を抱える子どもたちのことを少しでも考えることができよかったです。今現在は、目の前の問題を考えることで精一杯のことが多いのですが、知らないことを知ることができよかったです。先ず「知ること」が大切だと思います。子育てがうまくいかず、悩んでいる人は多くいますが、その中で相談されたり、助けを求められれば、その家庭の中に入っていくことも可能だと思いますが、そうでなければ家庭



の中に入ることはなかなか難しい問題です。子どもに声掛けを十分し、その子どものことをよく見て、認めてあげるようにしたいと思います。本園の場合は、お母さんとのふれあいを大切に思っておりますが、保護者が不健康であったり、子どもにプレッシャー

を与えすぎている、保護者に何らかの問題がある場合は、家庭でお母さんというより幼稚園にいるときのほうが子どもにとっていいのではと思われることもあります。保護者が変わることで子どもがよりよい成長をしていくと思われることも多くあると思いますので、保護者と話をしつつ、子どものためにできることをしていきたいと思います。いきっかけをいただきありがとうございました。

- ・ 「放課後から考える」というテーマで、一般的なことを想像していましたが、当たり前前の放課後がない、更には当たり前前の日常すらない子供たちのことを考える良い機会になりました。家庭環境や大人の関わりで子どもの未来が大きく変わってしまったり、差がついてしまったりということは近年親の経済力の差が学力差につながる傾向があるという報道で見ることがありましたが、生きる力、希望さえてない子どもたちがいることを大人はもっと意識しないといけないと思いました。そんな中、「第3の大人」という言葉がとても印象に残りました。方法も分からず深く立ち入れないとためらいがちであっても第3の大人として声をかけることだけでも出来れば、どんな子どもにとっても自分をみていてくれる人がいる、自分は忘れられた存在ではないという思いを与えることが出来ると思います。大きなことは出来ないという思いのある大人にも「第3の大人」として声掛けから始められることを周知していくことも第一歩かなと思いました。最後になりましたが、大変考えさせられる講演会をありがとうございました。
- ・ 出席者参加型で活発な意見の交換もあり、興味深く聞かせていただきました。自分に何か出来るかという視点で能動的に参加できました。放課後の現状を国際比較で知ることが出来、また全てにおいて共通する「継続」や「声をかける」といった大切なことも再認識でき、有意義なひと時をありがとうございました。

(記録 伊藤)